

# 社会科学学習指導案

日 時 平成25年5月31日(金) 公開授業 I  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
3年C組40名  
会 場 3B3C教室  
授業者 及 川 仁

## 1 単元名 第二次世界大戦とアジア

## 2 単元について

### (1) 生徒観

生徒は「近代の日本と世界」について、2年次に欧米諸国のアジア進出、明治維新、立憲国家の成立、近代産業の発展などを、本年度は第一次世界大戦前後の動きを学習してきた。個別の歴史的事象に関する知識にとどまらず、事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、意見交換したりするなどの学習を行ってきた。授業時の反応は、知識を問うような質問に対しては瞬時に答えようとしている。事象の原因や影響を問うような質問に対しては、発言を躊躇する生徒が多いので、自分の考えや思いを記述させ、それをもとに小グループで発表する活動などを取り入れながら学習を進めているところである。記述から発表という流れはできているものの、多面的・多角的に事象をとらえること、資料や他者の考えから自分の考えを再構築していくことなどは、まだ十分とは言えない。

本単元について、生徒は小学校第6学年時に、満州事変や日中戦争、太平洋戦争について学習しており、戦時下の国民生活のようすや沖縄戦、原爆投下などのできごとについてよく理解している。しかし、戦争に至る原因、経緯等については断片的な記憶にとどまっている。「太平洋戦争」について、既得の知識やイメージを確認するために行った調査では、以下のような結果が得られた。

1 アジア・太平洋地域で日本が戦った国はどこですか。(複数可)。 アメリカ(92%) 中国(72%) イギリス(23%) ソ連(15%)	4 原子爆弾が投下された都市名を書きなさい。 ・広島・長崎(87%) ・広島(10%)
2 太平洋戦争はなぜ始まったのですか。簡単に説明してください。 ・真珠湾攻撃に関する記述……74% ・資源(石油)に関する記述……48% ・日中戦争との関連に関する記述…37%	5 日本で地上戦が行われたのはどこですか。 ・沖縄(78%)
3 戦争によって国民の生活はどんな影響を受けましたか。知っていることをいくつかあげてください。 ・空襲(73%) ・勤労動員(43%) ・疎開(68%) ・食料不足(52%) など	6 今までに身近な人から戦争体験を聞いたことがありますか。 ・ある(25%) ・ない(75%) →祖母は食べ物がなく、うさぎを追って捕まえて食べた。 →祖父の父が海軍にいたこと。軍艦が沈没して泳いで帰ってきたこと。 →戦争のときの手帳を見せてもらって、何をかいているのかわからなかった。 など

本単元では、既存の知識である「空襲」「疎開」「沖縄戦」「広島・長崎」など、我が国の国民が大きな戦禍を受けた面だけを印象付けることにとどまることがないように留意し、なぜその事象が起こったのか、世界の動きと関連させながら原因や経過等について理解させたいと考える。そして、国際協調と国際平和の実現に努めることの大切さに気付かせたいと考える。

## (2) 教材観

本単元は『中学校学習指導要領 解説―社会編―』歴史的分野の内容(5)カにあたり、第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活などを通して、戦争の経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させることをねらいとしている。

従前は、内容の「(5)近現代の日本と世界」という単一の大項目であったものを、「(5)近代の日本と世界」と「(6)現代の日本と世界」の二つの大項目として構成されたものである。これは、近現代の学習を一層重視し、現代の社会についての理解が深まるように配慮されたものである。しかし、このことは、近現代の学習において学ぶ事象の増加や詳細化を意味するものではなく、むしろ学ぶ事象の一層の焦点化を意味するものであると考える。生徒にとって理解しにくい面をもつ近現代の学習においては、具体的な事例を取り上げたり、思考を重視した学習を進めたりしてその大きな展開をつかませるなど、扱い方を一層工夫することが求められている。

そこで、本単元では、「なぜこの戦争を回避することができなかったのか」という問いを設定し、単元の最後にこれまでに学習した内容を振り返り、習得した知識を活用させながら、もし戦争を防ぐことができたとするどどの時点であったかを考察させたい。さまざまな意見を出し合う学習を行うことで、歴史的な事象を多面的・多角的にとらえ考察する力や表現する力を育てていきたいと考える。

## (3) 学びの自覚化について

本校研究主題「新しい社会に生きる学びの構想 ―学びの自覚化を促す指導を通して―」を受け、社会科では学びの自覚化を促すために、「課題化」「言語化」「一般化」の三点を研究の視点として設定し取り組むこととしている。

① 課題化	② 言語化	③ 一般化
ア 社会的事象を的確にとらえる。 イ 社会的事象相互の関係構造を把握する。 ウ 課題を発見・把握する。 エ 解決の見通しを立てる。	ア 資料を収集し、読み取り、読み取った情報を記述する。 イ 社会的事象の意義や意味を解釈する。 ウ 社会的事象間の関連を説明する。 エ 自分の意見をまとめて論述する。	ア 全体構造を把握する。 イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考える。 ウ 実社会とのかかわりを見いだす。

本単元では、次の視点を重視していくこととする。

### ①課題化

- ・太平洋戦争開戦時の日米両国の国民総生産、政府、軍部、民間人の開戦を危惧する意見を知り、なぜ開戦しなければならなかったのか、単元の課題を把握する。(視点①ア・ウ)

### ②言語化

- ・資料集やインターネットなどを活用して収集、選択させた資料を基に、戦争を防ぐことができたと思われる時点について考察したことをまとめ、交流する。(視点②ア、ウ)

### ③一般化

- ・考察した結果と他者の説明から学んだことを基にして、今後、今の平和を維持していくために、過去の戦争から学ぶことは何か考える。(視点②エ、③イ、ウ)

### 3 単元の指導目標及び評価規準

#### (1) 指導目標

昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、戦争に至る経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

#### (2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動きと国際関係、国民の生活などに関心を持ち、意欲的に追究している。	第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、国際関係、国民の生活などについて多面的・多角的に考察し、表現している。	第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、国際関係、国民の生活などに関する資料を収集、選択し、読み取ったりまとめたりしている。	第二次世界大戦の終結までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解し、その知識を身に付けている。

### 4 単元の指導計画及び評価計画

時	指導内容	評価	評価場面
1	<b>日本はなぜドイツやイタリアと同盟を結んだのか？</b> ・第二次世界大戦前の各国の関係や開戦後の経過について調べさせる。 ・なぜ日本は日独伊三国同盟を結んだのか、多面的・多角的に考えさせる。	・第二次世界大戦開戦の原因や経過について、意欲的に調べようとしている。 <b>【関心・意欲・態度】</b> ・日独伊三国同盟を結んだ理由について、多面的・多角的に考察している。 <b>【思考・判断・表現】</b>	・挙手、発言 ・学習シート
	<b>日本はなぜアメリカとの戦争を始めたのか？</b> ・太平洋戦争の開戦の原因や経過について調べさせる。 ・日本のとった南進政策について、そのねらいを考えさせる。	・太平洋戦争開戦の原因や経過について理解している。 <b>【知識・理解】</b> ・日本が東南アジアに進出した理由について多面的・多角的に考察している。 <b>【思考・判断・表現】</b>	・挙手、発言 ・学習シート
3	<b>日本はなぜポツダム宣言を受け入れたのだろうか？</b> ・沖縄戦、広島・長崎への原爆投下について調べさせる。 ・ポツダム宣言を受け入れるまでの経緯について調べさせ、受け入れた理由について考えさせる。	・日本の降伏までの経過について理解している。 <b>【知識・理解】</b> ・日本がポツダム宣言を受け入れた理由について、多面的・多角的に考察している。 <b>【思考・判断・表現】</b>	・挙手、発言 ・学習シート
	<b>太平洋戦争へと向かうターニングポイントとなったできごとは何だろうか？</b> ・太平洋戦争を終戦から遡り、戦争を回避できた時点について考えさせる。 ・国際平和の実現のために、過去の歴史から学ぶことは何かを考えさせる。	・戦争の終結までの経過を振り返り、戦争を回避できた時点を自分なりに判断し、その理由を説明している。 <b>【思考・判断・表現】</b> ・今の平和を維持していくために、過去の戦争から学ぶことは何か考察している。 <b>【思考・判断・表現】</b>	・挙手、発言 ・学習シート

## 5 本時について

(1) 主題 太平洋戦争へと向かうターニングポイントとなったできごとは何だろうか。

### (2) 指導目標

- ・戦争終結までの経過を振り返らせ、太平洋戦争を回避できたとしたら、どの時点で可能であったか、戦争へと向かうターニングポイントについて考えさせる。
- ・現在の平和を維持していくために、過去の戦争から何を教訓とすべきかを考えさせる。

### (3) 評価規準

- ・戦争の終結までの経過を振り返り、戦争を回避できた時点を自分なりに判断し、その理由を説明している。 【思考・判断・表現】
- ・今の平和を維持していくために、過去の戦争から学ぶことは何か考察している。

【思考・判断・表現】

### (4) 指導の構想

本時は単元のまとめとして、これまで学習してきたことを振り返り、習得した知識を活用させながら、戦争を回避することができたのはどの時点だったのかを考えさせる2時間目である。生徒は、前時に戦争の終結までの流れを年表などで振り返り、戦争を回避することができるとしたらどこかを判断し、判断した理由を裏付ける事実（根拠）を調べる作業を行い、ワークシートに記入している。

本時の導入では、生徒が戦争を回避することができた時点としてどのような事象を取り上げているかを教師が紹介する。その後、できるだけ同じ事象を取り上げた生徒同士が交流できるよう、小グループを編成し、お互いの考えを説明し合うことを確認する。

展開では、小グループ内でお互いどんな理由付けでその事象を取り上げたのか、またその根拠は何かを説明し合うこととする。意見交換をさせながら、自分と同じ事象を取り上げていても、理由付けが異なることや、根拠とした事実（資料）が異なることから、多様な見方、考え方があふことに気付かせたい。その後、全体で意見交流を行う。この活動を通して、歴史的な事象を一面的にとらえるのではなく、様々な角度から考察し判断するとともに、適切に表現する能力と態度を養いたいと考える。

終末では、戦争を回避することができたのはどの時点であったか、考察した結果と他者の考えから学んだことを再構成し、再度自分の考えをまとめさせることとする。また、戦争へと向かうターニングポイントについて考える学習にはどんな意味があるのか、考えさせたい。歴史の中には、現代社会を維持、発展させるためのヒントが隠されていること、歴史を学ぶ意義について気付かせたいと考える。

(5) 本時の展開

段階	学習活動及び学習内容	時間 (分)	■学びの自覚化とのかかわり
導 入	<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争を回避できた時点としてどのような事象が取り上げられているかを確認する。</li> <li>・同じ事象を取り上げた人でも、判断の根拠が異なっていることを確認する。</li> </ul> <p>2 学習課題を把握する。</p>	5	
<p>太平洋戦争へと向かうターニングポイントとなったできごとは何だろうか？</p>			
展 開	<p>3 課題について意見交流を行う。</p> <p>(1) 小グループでの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争を回避することができた時点と、そう考えた根拠について説明しあう。 →世界恐慌、満州事変、国連脱退、五・一五事件 日独伊三国同盟、日中戦争など</li> <li>・グループ内で、判断の根拠や事実に着目させて、意見交流を行う。</li> <li>・グループ交流で、自分の考えにない視点があった場合は、ワークシートに書き加える。</li> </ul> <p>(2) 全体での交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合いの経過、戦争を回避することができた時点と、そう考えた根拠を発表しあう。</li> <li>・他のグループ（人）の意見について質疑を行う。</li> <li>・教師の補足説明を聞き、全体交流の中で出てこなかった視点、考えについて確認する。</li> </ul>	15  20	<p>■戦争を回避できたと思われる時点について考察したことを説明し、交流する。 (視点②ア、ウ)</p>
終 末	<p>5 課題についてのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争を回避することができた時点について、意見交流を通して考えたこと、気付いたこと等をまとめる。</li> <li>・戦争の歴史を学ぶことの意味、意義について考える。</li> </ul>	10	<p>■考察した結果と他者の説明から学んだことを再構成し、自分の考えをまとめる。 (視点②エ)</p> <p>■平和を維持していくために、過去の戦争から学ぶことは何か考える。(視点③イ、ウ)</p>